

28. 病理診断科 ジュニア・レジデントプログラム

1. 指導責任者：安井寛（病理診断科部長）

2. 期間：4週間または8週間（2年目選択）

3. 目標

【一般目標 GIO】

病理業務は主に生検や切除材料の病理組織診断（いわゆる外科病理）と病理解剖に分けられるが、これら全てを実際に体験することにより、病理業務の流れや、病理診断の医療における役割・重要性を理解する。尚、短い研修期間中に最大限の効果を挙げるため、希望により特定臓器の病理診断に重点を置くなど、主体的に目標を設定することが望ましい。

【個別目標 SBO's】

1) 安全管理・精度向上のために、病理検査室内及び病理・臨床間のコミュニケーションを密に行う。

2) 生検・手術材料の病理診断

①切除材料について、病変の肉眼所見の記載とスケッチ・写真撮影が適切に行える。

②検査目的に必要な十分な切り出しが行える。

③指導医のもと、病理組織学的所見を正確に把握し、癌取扱い規約や標準的教科書に準拠した、正しい病理診断を記載できる。

④免疫染色等の特殊染色の適応・有効性及び限界を述べることができ、結果を正しく解釈できる。

3) 術中迅速診断

①肉眼所見を正しく把握し、適切な切り出しが行える。

②指導医のもと、一定時間内に凍結切片による迅速診断を正しく行い、手術室に報告する。

4) 細胞診

①各種細胞診の検体採取方法・標本作製法を述べるができる。

②標本の基本的所見、及び組織像との関連を解釈できる。

5) 病理解剖

①解剖開始前に、担当臨床医とのディスカッションに基づいて、解剖で明らかにすべき問題点を十分浮き彫りにする。

②解剖の実際にあたり、執刀病理医の指導のもと、肉眼所見を正しく記載する。

③可能な限り肉眼病理診断を下すように努める。

④終了後は、臨床情報・肉眼所見・組織学的所見を総合して、的確な病理解剖報告書を作成し、CPCにて提示できる。

4. 方略【LSI】

1) 研修期間中に行われる全ての病理解剖に参加し、CPCにて提示を行う。

2) 午前中に行われる切除材料の切り出しに参加する。

3) 4週当たり約300件の生検・切除検体について、病理専門医の指導のもとに病理診断・報告を行う。

4) 定期的に行われる臨床各科とのカンファレンスに主体的に参加する。

5) 院外で行われる種々のカンファレンスに参加、積極的に症例提示を行う。

6) 学術的に興味深く発表の意義があると考えられる症例等については日本病理学会において発表し、可能であれば論文作成を行う。

5. 評価

1) 病理組織診断、CPC 等における発表について、指導医が形成的評価を行う。

2) 臨床検査技師等のスタッフに評価してもらう。

3) EPOC を用いて評価記録を行う。